

このプログラムは、Exif 形式の画像ファイルの Exif 情報から GPS の位置情報を取り出し、それを何らかのプログラムにパラメータとして渡して起動するツールです。（たとえばウェブ ブラウザで該当地点の地図を表示するなど。）
エクスプローラーのコンテキスト メニューから呼び出して使います。

配布ファイル一覧

ExifLoc.dll ... Exif 位置取得 シェル拡張 DLL
ExifLoc.exe ... Exif 位置取得 設定入力プログラム
ExifLoc.inf ... セットアップ情報ファイル
ExifLoc.pdf ... プログラムの使用方法 (PDF 形式)
Readme.txt この作品についての説明
License.txt ... ご利用条件

動作環境

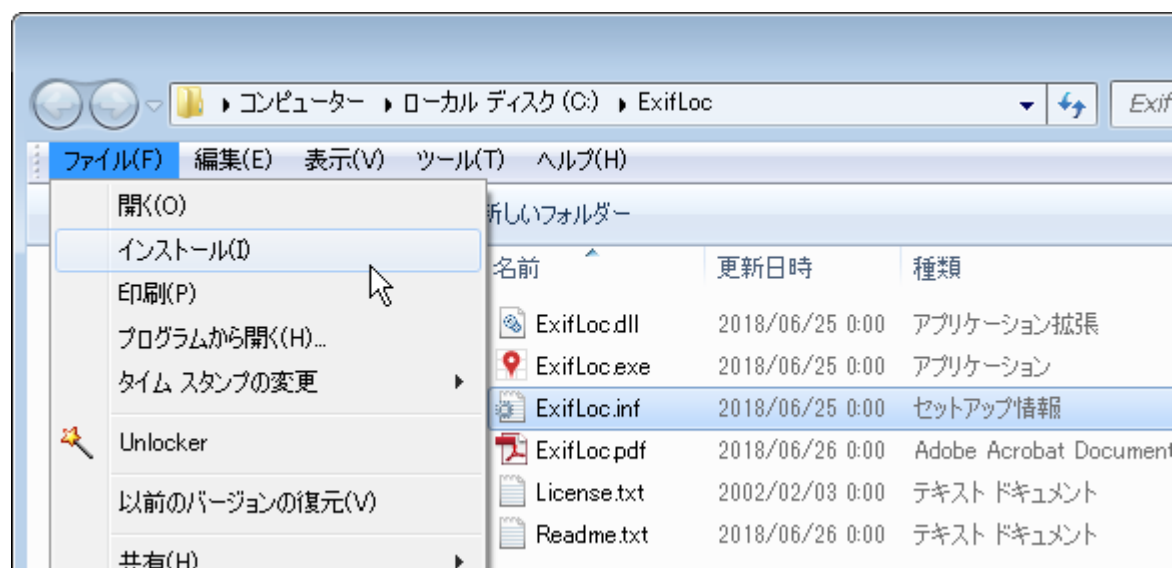
このプログラムは 64 ビット版の Windows 7, Windows 8 および Windows 10 上で動作します。
他のバージョンの OS 上での動作は未確認です。

以降の説明は Windows 7 の場合について行います。

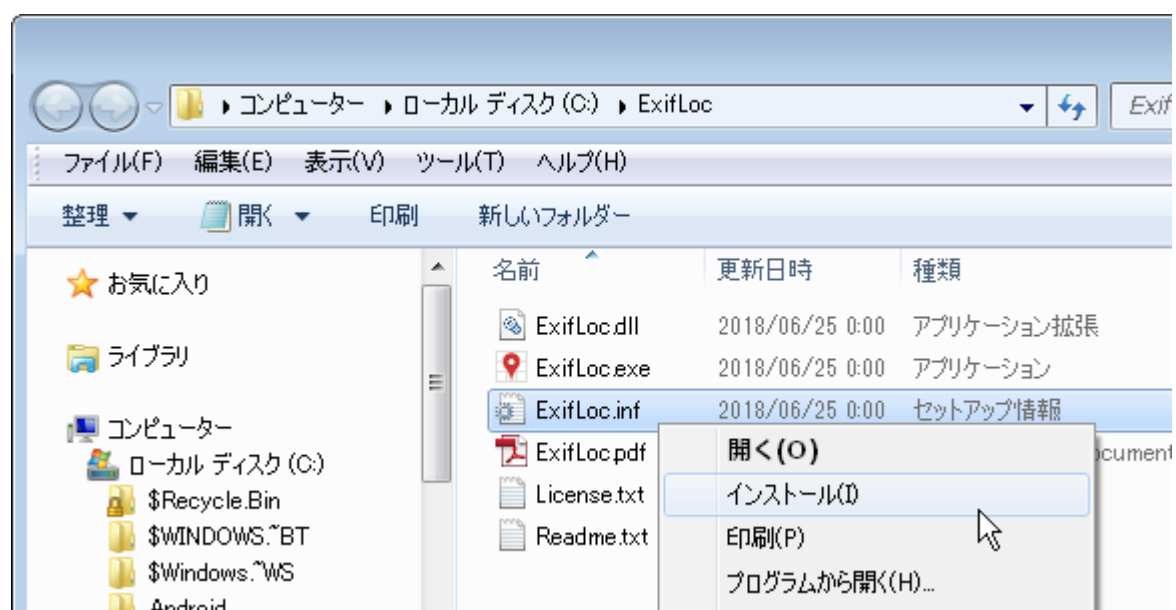
インストール

エクスプローラーの画面でセットアップ情報ファイル(ExifLoc.inf)を選択し、[ファイル]メニューから[インストール]を選択します。

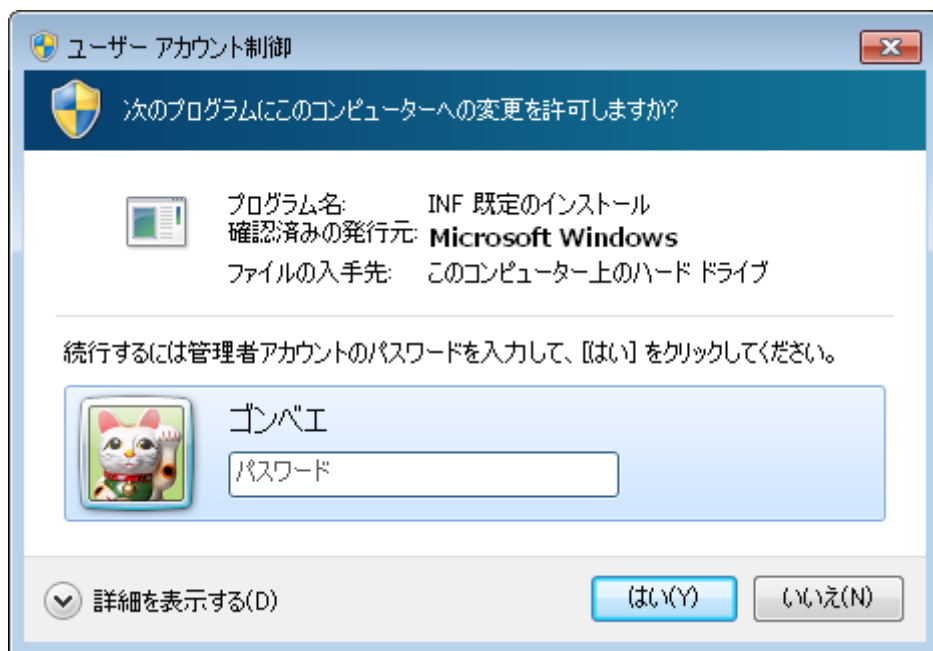
または、セットアップ情報ファイルを右クリックしてショートカットメニューを表示し、そこから[インストール]を選択します。



または



インストールには管理者権限が必要です。管理者以外のアカウントでログオンしている場合には、管理者アカウントのパスワードを入力する必要があります。



このインストールは、コンテキスト メニューの処理を行うシェル拡張(ExifLoc.dll)をインストールするものです。設定入力プログラム(ExifLoc.exe)はインストールされません。
設定の入力を行う場合は、設定入力プログラムをエクスプローラーなどで起動してください。

このプログラムはレジストリに以下の項目を作成します。

(1) COM オブジェクトの登録

プログラムを COM オブジェクトとして登録するため、以下のキーとその中にいくつかの値を作成します。

```
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{1F293E6F-E6B7-45A9-B205-94DB5BF5DDD5}
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{1F293E6F-E6B7-45A9-B205-94DB5BF5DDD5}¥InProcServer32
```

(2) コンテキスト メニューへの登録

プログラムをエクスプローラーのコンテキスト メニューに登録するため、以下のキーを作成します。

```
HKEY_CLASSES_ROOT¥**¥shellex¥ContextMenuHandlers¥{1F293E6F-E6B7-45A9-B205-94DB5BF5DDD5}
```

(3) プログラムの動作についての設定

プログラムの動作についての設定を保存するため、以下のキーとその中にいくつかの値を作成します。
(この項目は、インストール時ではなく設定を入力したときに作成されます。)

```
HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Mabuchi Yoshihiko¥ExifLoc
```

(4) プログラムのアンインストールの設定

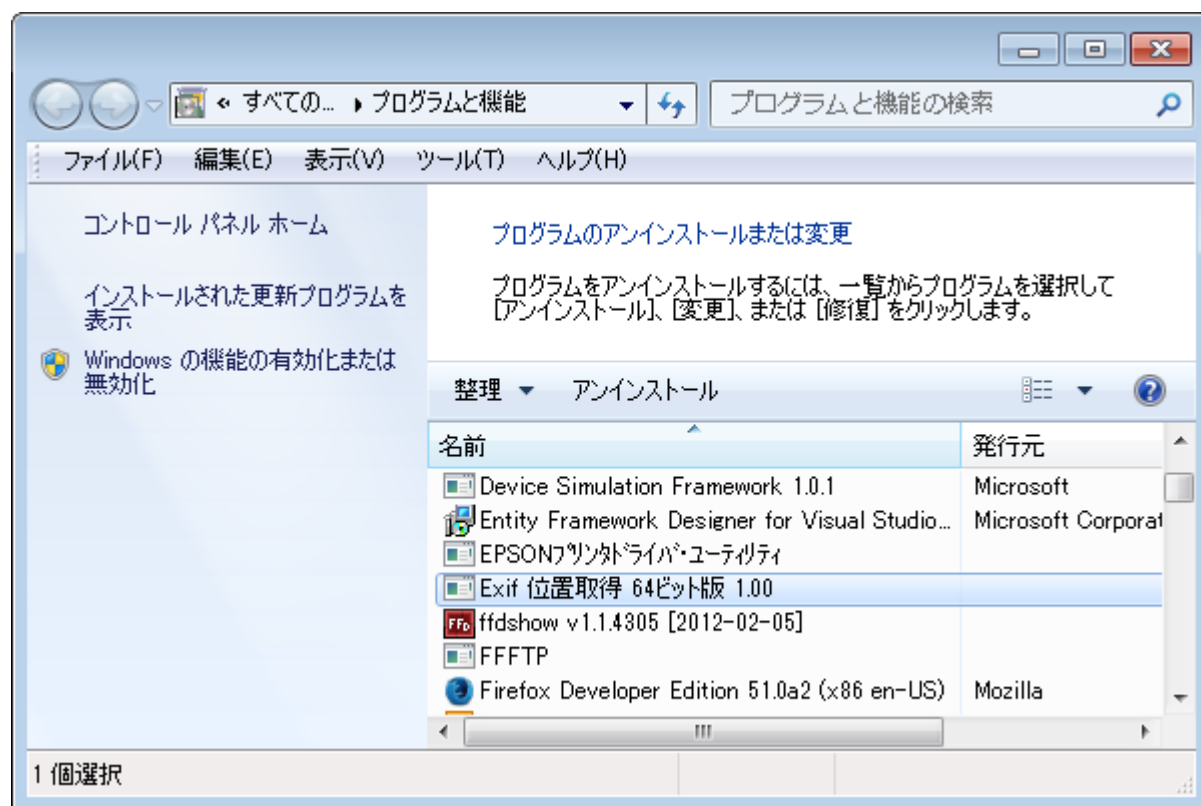
プログラムのアンインストールのため、以下のキーとその中にいくつかの値を作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall¥
(続き){1F293E6F-E6B7-45A9-B205-94DB5BF5DDD5}
```

アンインストール

[コントロール パネル]の[プログラムと機能]を起動します。

プログラムの一覧から“Exif 位置取得 64ビット版 X.XX”(X.XX はバージョン番号)を選択し、[アンインストール]ボタンを押します。




使用方法

起動対象の設定

このプログラム自体には、取得した位置情報を表示する等の機能はありません。取得した位置情報を何らかのプログラムにパラメータとして渡して起動します。

起動する対象と渡す位置情報の形式を、設定入力プログラムであらかじめ設定しておきます。



起動する対象は、URL または Windows で実行できる何らかのコマンド(実行形式プログラムやスクリプトなど)です。

URL を起動する場合は、システムの設定で該当スキームに関連付けられているプログラムに URL が渡されて処理されます。URL を起動する使い方の典型的な例は、ウェブ ブラウザで該当位置の地図を表示することです。その場合は http スキームや https スキームの URL を設定することになります。

しかし、システムの設定でプログラムと関連付けられているスキームであれば、http/https に限らず、どのようなスキームでも使用できます。意味があるかどうかは別ですが。

コマンドとして使用できるものは、Windows の[ファイル名を指定して実行]で起動できるものと考えていただければ、概ねよいかと思います。

[起動 URL/コマンド]に起動対象の URL またはコマンドを入力します。

URL/コマンドの文字列内の位置情報を表す場所には挿入標識を書いておきます。位置情報を取得する操作(後述)を行うと、URL/コマンドの文字列の挿入標識の場所に位置情報を挿入して、その URL/コマンドを起動します。

挿入標識は最初の文字が '@' で、続く 2 文字で挿入する情報の種類を指定します。

挿入標識	挿入する内容
@AH	緯度が北緯のとき[北緯を表す文字列]に入力した文字列 緯度が南緯のとき[南緯を表す文字列]に入力した文字列
@AD	緯度の「度」のみの数値(「分」「秒」は含まない)
@Ad	緯度の「度」・「分」・「秒」を「度」単位で表した数値 「分」・「秒」は小数部で表される
@AM	緯度の「分」のみの数値(「秒」は含まない)
@Am	緯度の「分」・「秒」を「分」単位で表した数値 「秒」は小数部で表される
@AS	緯度の「秒」のみの数値 秒に小数部がある場合、小数部は切り捨てになる
@As	緯度の「秒」のみの数値 秒に小数部がある場合は小数で表される
@OH	経度が東経のとき[東経を表す文字列]に入力した文字列 経度が西経のとき[西経を表す文字列]に入力した文字列
@OD	経度の「度」のみの数値(「分」「秒」は含まない)
@Od	経度の「度」・「分」・「秒」を「度」単位で表した数値 「分」・「秒」は小数部で表される
@OM	経度の「分」のみの数値(「秒」は含まない)
@Om	経度の「分」・「秒」を「分」単位で表した数値 「秒」は小数部で表される
@OS	経度の「秒」のみの数値 秒に小数部がある場合、小数部は切り捨てになる
@Os	経度の「秒」のみの数値 秒に小数部がある場合は小数で表される

'@' の文字を含む URL／コマンドを使用したい場合は、'@' を 2 個続けて書きます。

例

http://foo:bar@www.example.com/ という URL を使用したい場合

↓

http://foo:bar@@www.example.com/ と書く

URL を起動する例として、Google Maps で地図を表示する場合の設定の仕方を示します。
(この URL やパラメータの形式はこの文書作成時のものですので、将来変わるかも知れません。)

起動 URL／コマンド: `https://www.google.com/maps/@@AH@Ad,@OH@Od,17z`

北緯を表す文字列:

南緯を表す文字列: -

東経を表す文字列:

西経を表す文字列: -

たとえば、位置情報が北緯35度0分0秒、東経135度0分0秒の場合だと、このような URL が生成されて起動されます。

`https://www.google.com/maps/@35,135,17z`

コマンドを起動する例として、単に緯度・経度の値を画面に表示する場合の設定の仕方を示します。
msg.exe を使用できる環境であれば、次のような設定で緯度・経度を画面に表示することができます。

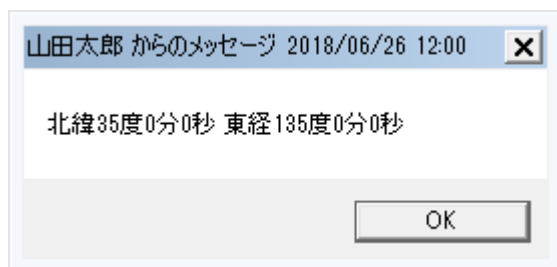
起動 URL／コマンド: `msg console "@AH@AD度@AM分@As秒 @OH@OD度@OM分@Os秒"`

北緯を表す文字列: 北緯

南緯を表す文字列: 南緯

東経を表す文字列: 東経

西経を表す文字列: 西経



msg.exe を使用できない場合は、たとえば次のような簡単なスクリプトで同様の表示ができます。

```
引数を表示するだけの VBScript  
If WScript.Arguments.Count Then  
    MsgBox WScript.Arguments(0)  
End If
```

仮に、このスクリプトがファイル名“Msg.vbs”で、“c:¥Temp”ディレクトリに存在しているとした場合、設定内容は次のようになります。

起動 URL／コマンド: c:¥Temp¥Msg.vbs “@AH@AD度@AM分@As秒 @OH@OD度@OM分@Os秒”

[北緯を表す文字列]以下は msg.exe を使用する場合と同じ。

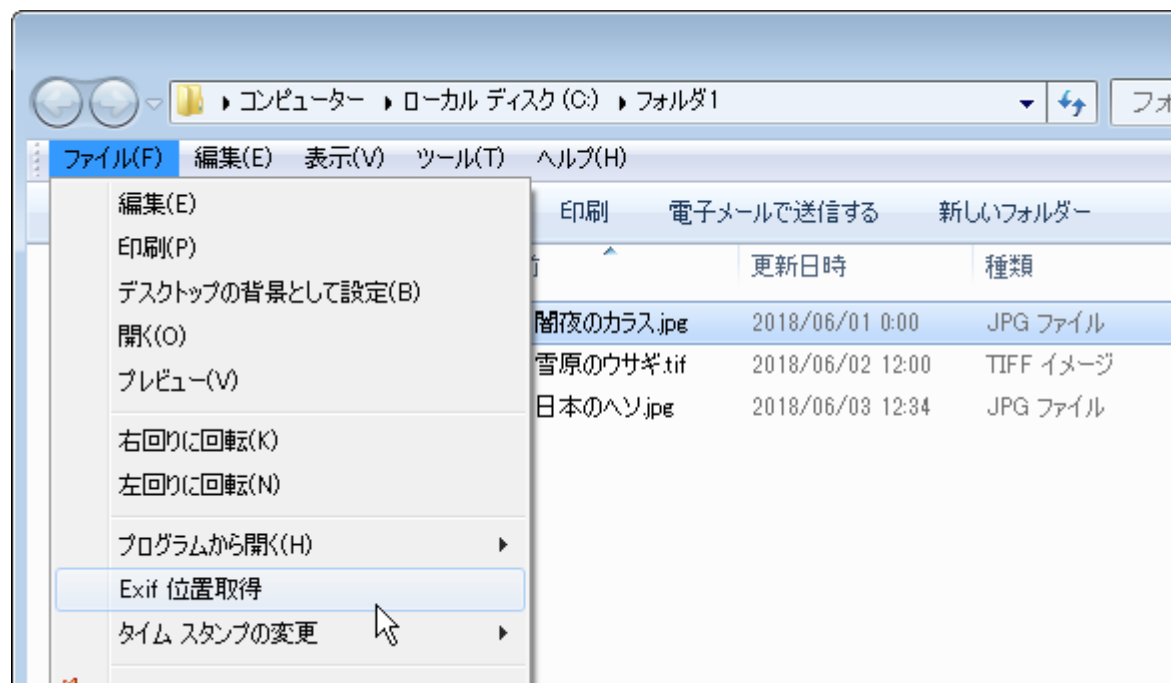


位置情報の取得

このツールはエクスプローラーの画面から起動します。

エクスプローラーの画面で位置情報を取得したい画像ファイルを選択し、[ファイル]メニューから[Exif 位置取得]を選択します。

または、位置情報を取得したい画像ファイルを右クリックしてショートカットメニューを表示し、そこから[Exif 位置取得]を選択します。



または

